

2023 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400517		
法人名	社会福祉法人 桜花会		
事業所名	ライフケアしかた	ユニット名	くるみ北
所在地	福岡市早良区四箇6丁目12番41号		
自己評価作成日	2024年2月22日	評価結果市町村受理日	2024年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年3月4日	評価確定日	2024年3月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は令和4年7月に開設した2ユニット（定員18名）のグループホームです。建物の前に四箇中央公園があり、お散歩をするのが日課となっている方もいらっしゃいます。医療面では複合型の利点を活かし、併設の特養の看護師によるラウンドや、夜間も連絡がとれるオンコール体制があり、介護職も相談がしやすい体制を整えています。ご家族の面会も多く、馴染みの場所へ頻繁にお出かけされる方もいらっしゃいます。共有スペースは比較的コンパクトな作りではありますが、入居者様同士の関係も築きやすく、レクリエーションや外気浴等を通し交流を深めていただいています。プライベートの時間を大切にしながらも自然と入居者様がリビングに集まってくる、そのような居心地の良い空間作りを今後も継続して行っていきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ライフケアしかた」は福岡市早良区にある。2022年7月に新館を増設し、グループホームと特別養護老人ホームとの複合施設になっている。系列のグループホーム大手門から複数の職員の異動があり、施設理念である「住むとこ・笑むとこ・暮らすとこ」が職員の拠り所となるよう、新採用した主任や職員とともに、グループホームのケアを担ってこられた。ホームの玄関から左右に「くるみ北館」「くるみ南館」の2つのユニットがあり、ユニット名の「くるみ」は職員が提案した名前である。開設当初は新設した建物内の場所に慣れ、新たに集った職員同士の関係性作りに努め、入居して下さったご利用者の方々・家族の方々との信頼関係を築くことに全職員で努めてこられた。開設から1年半が過ぎ、町内の運動会、夏祭り、餅つき大会、青空コンサート、他事業所のバザー等に参加することができ、着実に地域密着型グループホームとしての姿になってきている。糸島での菜の花見学、堤池公園の桜見物、野球観戦、鯉のぼり見学、マルシェで動物と触れ合う機会やマリナタウンでの買い物、リンゴ狩り、夏祭りなども楽しまれ、自宅へ外出する方もおられ、初詣（菊池神社、飯森神社、施設内のしかた神社）にお連れすることもできている。チームワークも着実に強くなってきており、法人理念の1つ目にある「個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って全人間的運営を行う」を大切に、日々「暖かい手」でのケアが行われている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員通路、ユニットの荷物置き場に法人理念、事業所理念を掲げることで理念を意識できるように工夫し、ケアなど困難な事にぶつかった時は理念に沿った解決方法を取っている。</p>	<p>前回の外部評価以降、法人理念・運営方針の研修を複数回に分けて行った。4つの法人理念と、「ライフケアしかた」の3つの運営方針をユニット内に掲示し、職員が理念を目にする機会を増やすことで、どのような想いを持って人に携わるのかを考える機会になった。「ライフケアしかた」全体の運営方針は「住むとこ」「笑むとこ」「生きるところ」であり、今後はグループホーム（ユニット毎）の理念を検討していく予定である。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域へ散歩に出ることで挨拶を交わしたり、短い時間での立ち話をしたりしている。公園の花を整備している方にお礼を言ったり、花をおすそ分けしてもらったりしている</p>	<p>日々の散歩中に近隣住民への挨拶を行っている。地域のチラシを見て絵画展に参加することができ、地域の方のお誘いもあり、ご利用者と一緒に餅つき大会や夏祭り、町内の運動会、青空コンサート、他事業所のバザーに参加することができた。</p>	<p>今後は更に地域貢献としての活動を増やし、散歩を兼ねたゴミ拾いや登下校の見守りなどを行っていきたいと考えている。小学校、保育園、幼稚園、地域の方々へのご挨拶を行い、更なるネットワークを広げていく予定である。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症状のある方に対する対応方法を質問された時は答えている。地域から認知症についての講座など依頼があれば協力していきたい。将来を見据えて若い世代に正しく認知症を知ってもらえるように小中高生に積極的に関わっていききたい。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で意見が出た、顔が見える関係性づくりの一環として職員紹介の掲示を準備した。参加メンバーを考え意見をもらいやすいような会議のテーマを設定している。公民館長が参加したときは「高齢者の人権と孤立について」をあげた	福岡市は2023年5月から対面会議の方針となり、自治会長、公民館職員（館長等）、地域包括職員、家族を含めて参加して頂いている。議事録の文字は大きく、タブレットを活用し、外出時や催し時の写真をご覧頂き、日頃の生活状況を報告しており、議事録は全ての家族に報告している。ホームの役割や認知症の説明を行うとともに、よかとこネットを紹介頂き、定例会へ参加することで他の事業所との交流を図れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や運営推進会議の参加依頼をしたり運営推進会議の議事録は渡している	開設時は施設長が市役所と連絡調整を続けてこられ、2023年9月に運営指導を受け、研修等のアドバイスを頂いた。管理者が主になり、福岡市本庁にコロナ禍での運営推進会議の開催等の疑問点を確認したり、メールで相談しており、早良区役所には事故報告をしている。地域包括から入居の相談を受け、個別に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回、事業所内で身体拘束、虐待の防止のアンケートを行っている。入居者の行動を制限しないように動きたいように動いてもらっている。その場をどうしても離れられない時や他の入居者にリスクがある時には管理者も含めて協力をして行動制限を極力減らしている。	法人全体で身体拘束を禁止しており、身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会を行っている。職員アンケート、職員面談を行い、更なる取組みに繋げている。「虐待の種類や具体例の説明等」の内部研修を行い、研修レポートも提出し、日々の振り返りを通して、法人理念の「個人の尊厳を重んじ優しい笑顔と暖かい手を持って…」の理解と実践に繋げている。ご本人の行動や症状に寄り添った個別ケアを目指しており、帰宅願望が強い方に対し、どこまでの行動を自由にして頂くのかなどを個別に検討している。主治医や家族の協力を頂き、少しでも穏やかに過ごせるように努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、事業所内で身体拘束、虐待の防止のアンケートを行っている。アンケート結果は管理者がまとめ、集計結果をみてもらっている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に相談にのれるように準備はしている。どの職員でも理解が出来るように伝達研修をおこなっていききたい。相談を受けたときに説明をしやすいようにパンフレットやリーフレットを準備し、入居者家族が見れるように掲示したり手に取りやすいように工夫していききたい	管理者と主任が外部の成年後見の勉強会に参加している。成年後見制度、高齢者のための権利擁護の内部研修を行い、職員の制度の理解を深めている。管理者や主任が入居者個々の制度の必要性を確認し、必要時はアドバイスをしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は質問や疑問がないか都度確認するようにしている。医療面に関しては看護師から説明を行い理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時やケアプランの意向を伺う時は要望や意見がないかを会話の中に取り入れ、出たものは管理者や他の職員とも共有し可能な限り希望に添えるように対応をしている	ユニット内にコロナ等の感染がない限り、居室での面会、外出、外泊等が行われている。面会時は日頃の写真や動画を見て頂く機会もあり、家族の要望に応じて食事介助をして頂いている。家族、職員（2人）が同行して遠方の自宅まで外出支援が行われたり、ご本人のスマホ（LINE）で写真を撮り、家族に送信している方もおられる。今後も通信等の作成を検討し、暮らしぶりを報告していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のグループホーム会議において個々の発言を引き出すようにしている。また、役職者との面談を随時行い、意見や提案を聞き出している。日頃のコミュニケーションにおいても同様。	管理者との個人面談もあり、グループホーム会議等で職員の思いや意見を聞く機会が作られている。職員から会議に関する意見があり、2024年度からはグループホーム会議とケアカンファを別の日程で行い、ケアカンファには役職者、看護師の他、担当者に参加してもらう予定である。職員個々の経験や考え方を把握し、チームとしての在り方を模索し続けており、日々生じる課題に向き合い、改善に向けた検討を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、その後に面談を行う等、各自が向上心を持って働けるよう努めている。昇給制度、年1回のストレスチェックあり。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等の制限は設けず、人柄やコミュニケーション能力等を重視している。職員に関しては希望休を考慮したり、資格取得に向けての環境整備を行う等配慮している。必要に応じて異動も行っている。	応募時に「グループホームで働きたい」と希望される方が多く、面接は主に施設長が行い、施設部長や管理者が同席する場合もある。資格の有無や年齢、性別を問わず、笑顔や話し方等の第一印象を大事に採用しており、採用後も職員個々の特技（壁面飾り作り等の手作業、レクリエーション技術、おやつ作り等）を活かしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内・外部の研修を通して人権尊重の意識付けを行っている他、ホーム内の会議においても不適切なケアが存在しないか、主任を中心に考える機会を設け、職員個々の意識付けに繋がっている。	内部研修を増やし、日々の言動やケア内容の振り返りに活かしており、施設長と部長が入職時に理念の説明を含めたオリエンテーションをしている。日々のケアでは管理者、主任が中心になり、職員の言葉遣いを注意し、日々のケアで気になる事を全体会議で伝えている。施設のリーダー会議とともに、法人内の主任、リーダーが集まる会議ではグループホームのリーダーの抱えている課題等を共有し、法人全体の組織の強化になっている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や苦手とする分野を把握しながら、内外の研修を受ける機会を確保している。費用は施設負担としており、勤務扱いでの参加としている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	よかとこネットの定例会に参加し、高齢者施設に限らず同業者とのネットワーク作りに取り組みながらサービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては特に留意し、ゆったりとした雰囲気でお困りごと等確認するようにしている。必要に応じて紐解きシートやセンター方式を用いてニーズを抽出している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との関係づくりにおいても同様で要望等に耳を傾けながら信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に必要に応じて他職種からアドバイスをしてもらおう等、他のサービス利用を含めた対応を行っている。入居後は訪問マッサージ等利用されるケースも増えている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若手スタッフが知らない干し柿作りや懐メロ等入居者に教えてもらう機会も多い。家事活動においても主体性を大事に、支え合える関係づくりを行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族としての役割が途切れないようケアプランにも位置付けながら共に支え合える関係を築いている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が訪ねて来られたり、以前通っておられた教会への外出を再開された方もいらっしゃる。ご家族の協力のもと職員の付き添いにて県外のご自宅へ一時帰宅された方もいらっしゃった。	管理者と主任（計画作成担当者）が自宅訪問し、生活状況を把握している。センター方式の記入を家族にお願いする場合もあり、ご本人にも生活歴を教えている。入居前から通われていた教会の集会に再び通えるようになったり、自宅周辺のスーパーへドライブを楽しまれたり、年賀状、手紙のやり取りをされた方もおられる。「しかた神社」を祭っている施設3階で正月に家族全員が集われた方もおられ、職員、家族も同行し、遠方の自宅へ外出できた方、正月に家族と外出や外泊された方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル配置や座席等は相性等を考慮し、適宜見直しを行っている。フロアで孤立してしまわれることがないよう見守り、声掛け、橋渡しを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設から日が浅い為、契約終了の事例は少ないが、入院時に面会に伺ったり、必要に応じて経過をフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より行動については選択して決めていただく等、意向を確認しながらケアを行うようにしている。食べたいもの、したいことを確認してご家族に協力いただいたり、職員と買い物に出掛けたりしている。	日々の生活の中でご本人の思いを伺うように努めており、ケアプランの24時間シートに、ご本人の「意向・好み」を詳細に記入している。ご本人が食べたいものや好きなもの等を家族が持参して下さり、訪問販売でお菓子等を購入している。希望に応じて同建物の特養に入居されているご主人に面会している方、遠方の自宅に職員も一緒にお連れすることができた方、図書館に好きな本を借りに行かれた方、バレンタインの際に「家族へチョコレートを送りたい」という願いを叶えることもできた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴や暮らし方等、意識的に聞き出すよう努めている。入居前のご自宅へ同行し、これまでの生活環境を実際に目にする機会もあった。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないであろうという先入観を持たず、可能な限り取り組める環境を整え過介護とならない生活を目指している。入浴については同じ時間や回数ではなく、体調や意向を確認しながら行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの立案時、ご本人、ご家族より意向を伺い、可能であれば原案をご本人に見ていただき、同意を得たり意見を伺ったりして作成している。	ケアチェック表を活用し、ご本人ができること、必要な介助、介助が必要な理由等を分析し、ケア内容に繋げている。個々のケアの留意点もケアチェック表に記入し、計画に記載している。センター方式も一部活用し、掃除・皿洗い・体操・散歩を含めて計画に盛り込んでいる。24時間シートも活用し、「意向・好み」「自分でできること」「サポートが必要な事」を詳細に記載している。目標達成に向けて訪問リハビリを導入した方、食事内容の工夫、裁縫で文化祭に出展する作品作りを行った方もおられる。	今後もケアチェック表の「5」身体機能の右下欄等に、ADLの詳細な能力・役割・趣味、できそうなこと等を増やし、機能訓練指導員等と相談しながら日々のリハビリや体操、事故予防等の計画に繋げていく予定である。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の気持ちが前向きになったことや、声掛けの工夫により応じられた内容等、ケア記録に残すことで情報共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴時間等規則的な時間の流れに捉われず、○○したいとの希望があれば極力その場で実現できるよう体制を整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運動会や餅つき等の地域行事に参加したり、週に一度の移動販売で嗜好品を購入してもらう等、社会との関わりを継続していくよう努めている。		



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向に沿うかたちで医療を受けていただいている。現在は全員が協力病院がかかりつけ医となっており、急変時の迅速な対応や薬の処方等スムーズな体制が出来ている。	複合施設の事務所の職員（介護職）が受診送迎し、看護師も同席し、主治医から指示を受けている。受診結果（検査結果等）は看護師から家族に報告し、日頃の健康状態は主任等が報告している。日勤帯に早期対応しており、体調変化等は特養の看護師に24時間相談できている。管理栄養士との連携もあり、食事が低下した際の指示を受けている。歯科医師も定期訪問し、機能訓練員にもアドバイスを頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝夕、職場内の看護師によるラウンドがあり、相談したり情報共有を図るようにしている。看護師と連携しながら健康管理に努め、必要な受診は迅速に行えるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院の際には、ご家族や病院関係者との情報交換、相談を随時行い、ご面会にも伺いながら経過観察に努め、出来るだけ早期退院となるよう支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、医療行為が必要となった場合の説明を看護師により行い、意向を確認するようにしている。意向確認は一年毎に行い、必要時には再度確認をとるようにしている。	看取りケアを行う方針であり、「ここで最期まで」と希望する方が多い。多職種協働で、ご本人及びその家族への継続的な支援を行いながら終末期ケアが行われている。同じ建物内に特養があり、24時間の医療連携が受けられ、希望に応じて転居できる体制もできている。受診時は系列の看護師が同席しており、今後も急変時の医療行為や終末期に関する意向確認を行う予定にしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアル化している。心肺蘇生法やAEDの操作法は内外の研修を通して技術を習得するよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での避難訓練には入居者様にも参加していただき、夜間想定で1名のスタッフが誘導する等、実際の場면을想像しやすいようにしている。消火設備の確認も行っている。	特養と合同で避難訓練（夜間想定）を行い、入居者も玄関まで避難している。複合施設であり、施設全体で8人の夜勤者が勤務している。北館は廊下の真ん中にテーブルがあるが、廊下の両端に避難ドアがあり、安全な避難方法の対策を続けている。災害に備えて白飯（アルファ化米）やお粥、ビーフカレー、みそ汁（即席）、飲料水12L×25箱、長期保存用野菜ジュース120本等を準備しており、災害時は施設の1階に3名まで地域の方が宿泊可能である。感染症、自然災害についてのBCPを作成している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇面に関しては、会議や研修を通して指導したり、直接面談を行って注意することもある。敬語で話すことを基本とし、否定的な言葉掛けをしないよう気をつけている。	言葉遣いは敬語を基本とし、ご利用者に否定的な言い方をしないよう留意している。個人名での申し送りを避け、声量にも配慮している。「介護をしてあげる」ではなく、その人の生活に職員が入り込むことを意識したケアに努め、入室時にはノックしている。洗濯物の下着類は自分の持ち物を畳んでもらい、希望時は同性介助している。トイレ誘導時は小声で行い、トイレのドアを閉めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択ができるような質問を投げかけることが多い。お一人お一人に合わせて質問の仕方を変えたり、表情の変化から汲み取る場面もある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間等、入居者様のペースに合わせた生活ができるよう、タイムスケジュールや活動への参加を無理強いしないよう心掛けている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服が同じようなものにならないよう声掛けしたり、肌の手入れを行う等支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に関しては、毎食の炊飯の他、おやつ作りを中心に行っている。週に一度の移動販売では果物やパン等好きなものを選択して購入出来るようにしている。	管理栄養士が作成する献立で、カロリー計算をしており、季節の食材が使われている。特養の厨房で3食作り、1人ずつ配膳したものが運ばれてくる。炊飯はホームで行い、ご利用者が米研ぎをして下さる。ホームの中は入居者が配膳車を押し、お茶淹れ・汁物をつくぐ・蓋取り・献立の読み上げ・下膳・食器洗い・テーブル拭き・ボードに献立を書かれる方もおられる。おやつ作りを行う時もあり、食材の買い出しから一緒に行い、べっこう飴やパンプキンケーキ作り、クリスマスケーキ作り、干し柿作り、寿司会、秋祭りでベトナム料理、ぜんざいなども楽しまれ、そうめん流しは竹採りからされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嚥下状態に合わせた形態、量で提供し、食事が進まない場合には嗜好品や補助食品を積極的に取り入れている。一日の摂取カロリーや水分量が無理のない範囲で大きく下回らないよう、こまめに提供する等工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台にて口腔ケアを行っている。訪問歯科の指導を受けながら、磨き方が不十分な場合はスタッフが介入している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を感じにくくなっておられるのか、トイレの場所がわかりにくいのか等、アセスメントを行いながら自立に向けた支援を行っている。	ご利用者の能力に応じてトイレの表記を工夫している。管理者の希望でユニット毎に4つのトイレを造り、「だれでもトイレ」は中が広がっている。入居時から排泄パターンを把握し、布の下着を着用して排泄が自立している方や、排泄パターンを把握し、リハビリパンツから布の下着に変更できた方、下肢筋力が改善し、夜間帯もトイレでの排泄ができるようになった方もおられる。夜間の排泄道具を見直すことで、衣類や寝具の汚染を軽減できた方もおられる。必要な方は事前誘導しており、失禁の原因を探し、対策の検討を続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には乳製品等の摂取を促したり、散歩やマッサージを行う等、下剤のみに頼らないケアを心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日固定を希望される方にはそれに合わせた対応をし、それ以外の方は固定しないようにしている。午前には気乗りされない場合は午後に対応する等柔軟に行うようにしている。	入浴日を固定せず、希望に応じて入浴されている。湯船は3方向から出入りでき、手すりも複数ある。湯船に浸かられる方も多く、2人介助を行ったり、希望時は同性介助もできる。入居前の入浴習慣や希望を伺い、希望のシャンプー等を利用しており、固形石鹸を使われる方もおられる。職員のアイデアでミカンの皮湯なども楽しまれている。今後も物の落下対策を含めた検討を行う予定である。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向に配慮しつつ、ご本人の生活習慣や体調、体力に合わせた休息がとれるよう環境整備を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効等がすぐに確認できるよう、薬の情報をファイリングしている。薬の変更があった場合は体調の変化をケア記録に残し、看護師と連携が図れるようにしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から把握した得意なことや出来ること、楽しめることを生活の中に取り入れるようにしている。入居時からのアセスメントを行い、継続した支援を行うよう努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望時に散歩に出掛けられるよう支援している。近場への買い物やドライブ等の他、ご家族側の提案で他県や市内のご自宅に同行したケースもあった。	移動販売（とくし丸）を利用し、好きなお菓子を買われている。車いすの方も一緒に糸島で菜の花見学、堤池公園の桜見物など、季節の花見を楽しまれている。野球観戦、鯉のぼり見学、マルシェで動物と触れ合う機会やマリナタウンへ買い物、リンゴ狩り、夏祭りなども楽しまれた。初詣（菊池神社、飯森神社、施設内のしかた神社）にお連れすることもできており、自宅へ外出する方もおられる。近くの公園で地域の方がゲートボール等をされており、今後も外出の機会を増やしていく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の意向で財布を所持されている方もいらっしゃる。食材の買い出しや移動販売の際に、入居者様に直接支払いをお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望時には電話やライン等を使用できるように支援している。携帯電話を所有されている方に対し、操作方法をお伝えすることも多い。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面や玄関にレクリエーション等で作成した季節にあった飾り付けを施している。空間では不快な音が多くなるよう入居者様同士の会話が始まった際にはテレビの音量を下げる等配慮している。	ユニット間に「中庭」があり、青空を眺めることができる。北館と南館で共有空間の造りが異なるが、台所とフロアは一体化し、テーブルの配置も職員間で検討しながら決めてこられた。床はクッション素材で、廊下は長く、歩行運動等も十分にできる。台所だけで家事を行うのではなく、炊飯器や急須などはフロアのテーブルに移動し、お茶注ぎやご飯継ぎをしてもらっている。今後も共有空間のテーブル以外に、更なる居場所作りを検討し、浮腫予防等に繋げる予定である。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の配置に決まりはなく、入居者様同士の関係性を観ながら、別の位置に誘導を行う場合もある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真立て等の小物から、馴染みの家具までご本人らしい生活空間となるようお好みのものを持ち込んでいただいている。	入居時に馴染みの物を持参して頂くようお願いし、家族写真やご自分で書かれた書物（掛け軸）、テレビ、ご自分で作られた花の飾り物、ラジオ、時計、日めくりカレンダー等を持ち込まれている。各居室に洗面台があり、タンスと電動ベッド等を備え付けている。北棟は透明ガラスが多く、公園が見える部屋もある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札をつけ、出来る限り迷われることのないよう支援している。居室内は動線の妨げにならないよう家具を配置する等安全にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				